

# U.S. Indicators

発表日:2020年3月6日(金)

## 米国内需要の堅調示唆(20年2月ISM非製造業・総合)

～企業は新型コロナウイルスの影響を警戒も楽観的な見通しを維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

### ISM非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	輸入	在庫変動
19/02	58.5	62.9	62.0	55.6	53.5	55.5	54.3	55.0	48.5	51.0
19/03	56.3	58.0	59.2	55.9	52.0	56.5	57.5	52.5	51.5	50.0
19/04	55.7	59.6	58.3	54.5	50.5	55.0	55.6	57.0	55.0	51.5
19/05	56.3	60.1	58.5	57.1	49.5	52.5	56.0	55.5	50.0	54.0
19/06	55.4	58.4	56.6	55.2	51.5	56.0	58.8	55.5	50.0	55.0
19/07	54.8	56.8	55.3	55.7	51.5	53.5	57.0	53.5	53.5	50.0
19/08	56.0	60.4	59.6	53.7	50.5	49.0	58.4	50.5	50.5	55.0
19/09	53.5	56.6	54.7	51.7	51.0	54.0	59.3	52.0	49.0	53.0
19/10	54.4	55.5	55.6	53.9	52.5	48.5	57.3	50.0	48.5	50.5
19/11	53.9	52.3	56.7	54.9	51.5	48.5	58.8	52.0	45.0	50.5
19/12	54.9	57.0	55.3	54.8	52.5	47.5	59.3	51.0	48.0	51.0
20/01	55.5	60.9	56.2	53.1	51.7	45.5	55.5	50.1	55.1	46.5
20/02	57.3	57.8	63.1	55.6	52.4	53.2	50.8	55.6	52.6	53.9

(出所) ISM

20年2月のISM非製造業景気指数(季節調整値)は、57.3と前月比1.8%ポイント上昇し、非製造業部門の拡大ペース加速を示した。また、ISMは2月の57.3という水準はこれまでの実質GDPとの関係でみると、GDPが前期比年率+3.0%成長だった時に一致すると指摘しており、2月に米経済成長が潜在成長率(同+1.8%程度)を大幅に上回る成長ペースに加速していたことを示唆している。

2月は、中国での新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって製造業が鈍化したなか、米国内での感染者数が2月中旬ごろまで少なかったことや個人消費など国内需要が堅調だったことを背景に、非製造業部門は好調さを維持した。

企業からの報告では、ほとんどの回答者が新型コロナウイルスの感染拡大やサプライチェーンへの影響のほか、引き続き労働力不足を懸念している。それでも、企業は事業環境や経済全般について前向きな見方を維持していた。

総合指数の算出項目をみると、活動指数が低下した一方、新規受注、雇用、入荷遅延が上昇した。総合指数への寄与度では、活動指数が前月比▲0.78%ポイントの押し下げ寄与となった一方、新規受注が前月比+1.73%ポイント、雇用が前月比+0.63%ポイント、入荷遅延が前月比+0.17%ポイントの押し上げ寄与となった。

サブ項目では、新型コロナウイルスの感染拡大によるサプライチェーンへの悪影響が懸念されるなか、新規輸出受注が55.6と前月比5.5%pと大幅に上昇しており、米国の輸出加速を示している。インフレ面では、チーズ、乳製品、ディーゼル燃料などの押し下げによって仕入価格DIが50.8と急低下し、川上でのインフレ圧力が急速に弱まっていることを示唆している。

一方、供給不足の部門として、建設請負業者、労働者、建設労働者、派遣労働と引き続き労働力不

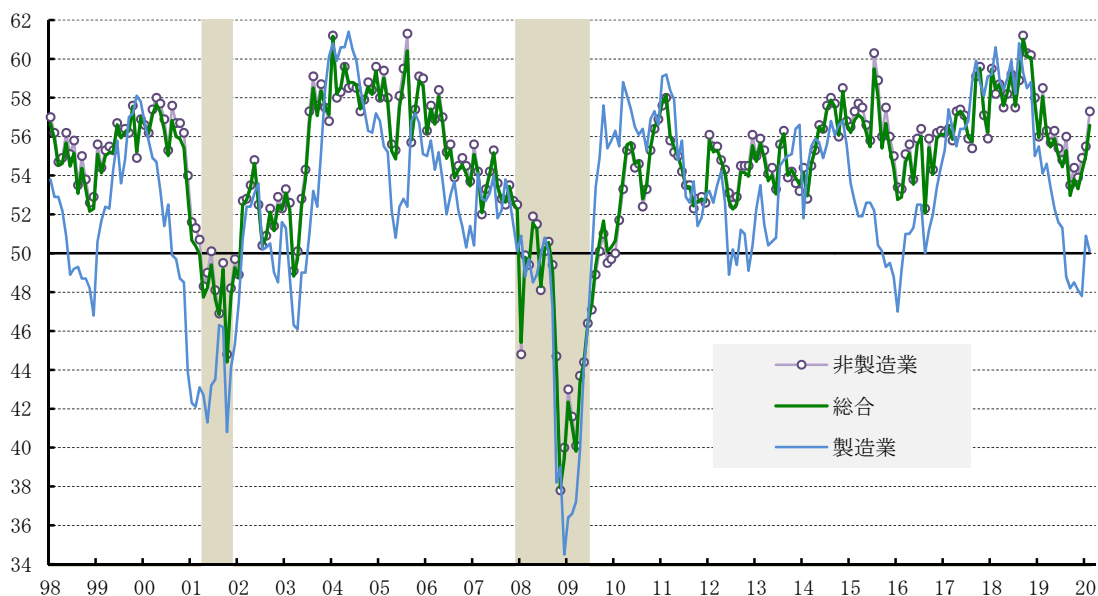
足が示されたほか、医療用品、個人用保護具、手術用ガウン、手術用マスクなどの不足が報告された。

拡大縮小の分岐点となる50を総合指数の全構成項目が依然上回っており、健全な拡大となっている。また、2月の業種別の動向では、全18業種中16業種の拡大と1月の12業種から増加した。拡大した業種（下線は拡大、縮小が2カ月以上続いたことを示す）は、宿泊・飲食サービス、企業向けサービス、鉱業、金融・保険、不動産業、その他サービス、建設業、医療・社会支援、公的部門、卸売業、運輸・倉庫、教育サービス、専門・科学・技術サービス、公益、情報産業、小売業の16業種となった。縮小した業種は、芸術・娯楽・レクリエーション、農林水産業の2業種（1月6業種）と減少した。

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数で合成）」は、2月に56.6と1月の55.0から1.6%ポイント上昇した。単月では上下の変動幅が大きいことから基調をみると、1、2月（平均）は55.8と10-12月期53.8、7-9月期54.2を上回っており、1-2月期の実質GDP成長率が10-12月期の前期比年率+2.1%から小幅加速していたことを示唆している。

今後については、新型コロナウイルスの感染拡大による中国経済の下振れやその影響を各国が受けよう。また、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、各国の国内需要の拡大モメンタムが悪化すると見込まれる。さらに、米国内でも新型コロナウイルスの感染拡大の可能性が高いことから、ISM非製造業景気指数、総合景気指も目先水準を切り下げると予想される。

ISM景気指数の推移



(出所) ISM

(注) シャド一部は景気後退期。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。